

会 報

◇奈良大学史学会總會

六月三日(土)、本学において、第十七回奈良大学史学会總會を行った。一九九九年年度の決算・会計監査報告及び事業報告が行われ、ついで二〇〇〇年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案されそれぞれ原案どおり承認された。尚、本年度より学生委員会役員の任期が年度末まで延長され、また新入生歓迎会及び卒業パーティの予算案も新たに設けられ承認された。

二〇〇〇年度の役員は以下の通り。

▽会長

青木 芳夫

▽副会長

菅野 正

▽教員委員

(庶務・会計)

青木 芳夫

(庶務・交換)

森田 憲司

(編集)

寺崎 保広

(監査)

守山 記生

鎌田 道隆

※学生委員

(代表)

堀之内寛郎

(副代表)

川田 祐介

(総務局長)

長 奈保子

(広報局長)

中村 祐子

(青垣祭企画実行局長) 飯塚 直紀

(四回生委員)

綾 美菜子 石橋 尋志 垣下 高継

神崎 前

神戶 雄佑 木下 一誠 小森智香子

柴田芽求美

曾田 洋子 二宮 猛 松本 祐也

(三回生委員)

城野 岳雄 竹岡 健次 平畑 典之

森 和徳

(二回生委員)

伊藤 大樹 上田 哲平 尾上由希子

片山 泰宏

鎌田 康治 兒島 寛 坂田陽一郎

坂本 昌隆

鈴木 啓史 高橋 広光 田頭 美歩

篁 祐子

田口 直人 花房 浩輔 矢津 聡子

山中 珠里

山本 勝

(一回生委員)

遠藤 絵美 岡本 隆浩 荻野衣梨子

河崎 雄介

北田真知子 木下ちひろ 木元 雅也

桐山まどか

窪田 紘之 河野 里香 小霜 浩司

志麻 清香

人見 麻生 松岡 圭佑

◇特別講義

六月三日(土)、史学会総会に引き続き、特別講義が行われた。講師・演題は以下の通り。

吉川 真司氏(京都大学助教授)

「古代の大和を歩く」

谷口 健治氏(滋賀大学教授)

「ヨーロッパの近世都市」

◇伝統体験工芸ツアー

毎年恒例となった伝統工芸体験ツアーは、本年度より教員委員も参加して行われた。総務局が中心になり企画され、六月一〇日(土)には、「京都で京友禅染めを体験しよう。」と題して行われた。本学科学生の参加が多く、好評であった。ついで、十一月十二日(日)には「飛鳥へ行こう」が実施され、寺崎助教授に御指導を頂いた。有意義な一日を過ごすことができたと参加者に好評であった。これから先、体験ツアーをより活性化させていくためにも、これまで以上に内容の充実を図らなければならない。

◇「史学会会報」等の発行

奈良大学史学会の活動の普及を目的として、「史学会会報」を二ヶ月に一回発行し、史学会の企画案内、各地の史跡や祭事等を掲載した。また、本年度も一回生を対象に来年度以降の講読・ゼミを決定する上での参考資料として、各ゼミに所属する学生の執筆による「講読紹介」を発行した。

◇青垣祭

昨年度に引き続き、青垣祭(学園祭)に出展した。本年度は、本学の世界遺産コース設置に乗じて「世界遺産」のテーマで展示発表を行った。会場では、有名人と世界遺産を比較してパネルで紹介し、平城宮跡の模型を展示することにより、私たちに身近な話題であることを感じさせることができた。十一月三日(金・祝)から十一月五日(日)の三日間で延べ五百人の来場者が訪れた。また、青垣大賞(学園祭において優秀な団体に贈られる)の編集企画部門で第二位をいただき、各方面から高い評価を受けた。ご協力いただいた方々には深くお礼を申し上げる次第である。

◇会員動向

○水野柳太郎氏は、一九八二年より一八八一年間にわたって史
学科の日本古代史を担当してこられたが、二〇〇〇年三
月末をもって定年退職された。

○藤井 学氏（日本中世史担当）は四月より、奈良大学学
長に就任された。

○寺崎保広氏が、四月に奈良国立文化財研究所から赴任さ
れ、日本古代史を担当することとなった。

○北村麻子氏（西洋古代史担当）は、八月から二年間の予
定で、在外研修生としてイギリスに留学されている。

○鎌田道隆氏（日本近世史担当）は、三月に永年の研究成
果を『近世京都の都市と民衆』（思文閣出版）としてま
とめられた。本誌の書評を参照されたい。

○今年度から、文学部に世界遺産コースが新設され、その
テキストの第一冊目として一〇月に『世界遺産学を学ぶ
人のために』（世界思想社）が刊行され、史学科では鎌
田道隆・森田憲司・青木芳夫・寺崎保広の各氏が執筆さ
れた。

平成二一年度史学科卒業論文題目

【日本史】

奈良時代における皇后宮職

八世紀の騎兵について

古代吉備国の考察

律令制下の氏・姓の性格

橘諸兄考

— 諸兄政権における藤原氏について —

知太政官事の性格

行基処罰説について

『不改常典』に関する一考察

授刀舎人再考

伊勢神宮の神郡、神戸

奈良時代の即位儀礼に関する一考察

奈良時代の銭貨について

— 和同開珎を中心に —

時服についての考察

大和宿禰長岡の生涯

天平十二年から天平十七年にかけての遷都について

綾 啓子

井口 智博

板野 高明

臼田しのぶ

大坂なつき

岡本有希子

奥田 祥子

勝田 浩章

釜野 正己

川合 美佳

西野維久子

齋藤真沙美

素都 紗香

高田さやか

いわゆる内・外階制の再検討

奈良時代の孫王について

天皇号の成立

奈良時代の命婦について

下級官人の生活についての一考察

平安初頭における位階制の変化について

大宝元年派遣の遣唐使の一考察

女丁について

律令制下の紀氏について

采女について

官糶混合について

奈良時代の郡司について

☆ ☆ ☆

北条一族の臨終における実相について

高師直一族暗殺の歴史的意義について

戦国大名伊達政宗の動向について

戦国期における尾張生駒氏の活躍

―若き日の天下人信長・秀吉を支えた一族―

恵良惟澄の南朝方における活躍

土屋 裕美

都築 隆人

平石 智也

本郷 統章

松本 智紗

道田 悦康

光本 健吾

村田 拓也

森山 優美

吉田麻有子

吉村はるか

依光 讓治

船木 紀子

浅川 裕子

荒島 武

飯田 智彰

生駒 智

石原 明知

琉球王国の対明貿易について

―大交易時代を中心に―

一遍と時衆の鎌倉入りについて

―生い立ちから鎌倉入りまでを見ながら―

戦国期における三好氏と堺の関係について

―その経緯と実態―

湊川の戦いについて

室町幕府成立期における佐々木導誉の動向

畿内における覇権争い・三好三人衆と松永久秀の攻防

大和地域における能楽遺跡の歴史的特色について

―龍田地方を中心に―

大山祇神社と伊予水軍の歴史的關係について

室町期 伊予警固衆について

楠木正成と建武新政

―正成の再評価―

戦国期口宇陀地方の地域構造

―文献史学と城館研究の分業による協業を通して―

戦国末期西美濃稲葉氏について

―一鉄・貞通・典通を中心に―

伊藤 恒一

伊藤 寿明

岩城 宏之

上田 光弘

占部 秀則

岡本 真一

小川 智子

小倉 志麻

越智 佑太

加藤 裕美

金松 誠

木村 昌史

荒木村重の摂津支配

— 媒体を中心に —

文明年間の伊勢湾海上交通権について

御市 人物考

六角氏式目制定にみる六角氏権力

高師直の人物像

— 悪党とされる理由 —

大友宗麟とキリシタンについて

— 宗麟入教が大友家臣に及ぼした影響 —

筒井順慶が大和一国支配を実現するまで

長宗我部氏の領国支配の推移について

織田信長と石山本願寺の対決について

— 石山合戦の終焉を中心に —

応仁の乱前後における祇園御霊会

畿島神社祠官棚守房顕と毛利元就との関係について

— 畿島支配を中心に —

徳川家康の伊賀越えについて

大内義弘と応永の乱について

北条泰時の信仰について

建武新政期の対公家政策

小西 寛子

— 後醍醐天皇の政治理念 —

越前朝倉氏「十七か条」についての考察

義経伝説と忠実についての検証と研究

織田信長の北伊勢支配について

十河氏について

— 一存、存保を中心に —

正親町天皇帝位をめぐる問題

南北朝延元二年の和泉国合戦を中心に

— 和泉国在地武士の和田氏の立場を考察 —

禁闕の変と長祿の変を中心にみる後南朝の活動

後白河政権の政局の推移の史的分析

近江国得珍保の惣村についての史的分析

吉田家学と唯一神道について

翁猿楽の成立と展開について

長祿合戦の歴史的意義について

応仁元年「相国寺合戦」について

及び後世の再評価にもついて

天正前半期の織田政権下における奈良支配について

長塚 泰幸

縄手 貞宣

二之部裕子

野村威都子

服部 令佳

濱本 恵

藤原 宏透

真鍋 功

明楽 孝行

三星 彰子

宮崎 幸

村澤 将典

森田 稔

湯本 可奈

谷口 誠

塚本 哲也

津野 貴志

仲 香織

中井 裕子

三浦一族の推移について

—宝治合戦を中心に—

☆ ☆ ☆

吉田 麻子

近世後期における庶民の旅と女性の役割

中内 百恵

近世の旅における絵画の情報伝達

藤田 佳子

近世中期以降の名古屋における商業活動の展開

古市 一志

近世中期以降の奈良における観光開発

網野 江美

近世中期以降の教訓書にみる農民生活

荒木 伸介

岡山藩政における池田光政の教育政策について

本願 将之

近世後期の執筆活動及び作品をめぐる

作者・板元・貸本屋の動向

池内 和世

幕末維新期における横浜の開港過程について

三好 友紀

吉田松陰における兵学思想の変化と国家観

内田謙一郎

近世中期以降の流行病と民間療法に関する一考察

森 晴那

享保改革と御側御用取次役についての考察

太田 宗休

江戸後期における平田篤胤の思想と行動

山本 哲郎

橋本左内の統一国家構想の形成と展開

川名 大介

近世大坂における廃物問題とその対策

吉村 文克

西讃寛延百姓一揆の性格とその構造について

京極 真澄

皇室博物館の歴史

安東久美子

豊臣秀俊の分析から見た前期豊臣政権論

北堀 光信

日本近代競馬史

家畠 信高

幕末における民兵の成立とその歴史的意義

合原 俊之

—明治時代初期との関係—

石山 薫

近世中期以降の商家の家業と分家、別家について

島袋 静佳

日本海軍の俸給制度

大西 健一

西洋医師新宮涼庭の国益思想について

州崎 友里

一九六〇年前後の社会運動

香川 正宏

近世江戸時代における飛脚の展開

曾田 三保

—奈良県での安保改定反対運動—

川上 裕司

—幕府法令からみた飛脚—

棚橋真佐美

平城宮跡の保存

日本人の「満州」観

—青柳篤恒と大隈重信との比較から—

日本の学童疎開について

—学童集団疎開を中心に—

天皇制イデオロギーの確立過程

戦後の学校給食について

明治四十四年野球論争

マーシャル・プランとドッジ・ライン実施の日本への影響

杉山 良輔

広島平和記念公園にある韓国人原爆犠牲者慰霊碑に関して

芹ヶ野 猛

明治天皇北海道巡幸とアイヌ民族に関する一考察

田口 正夫

皮革業と部落について

土居 章浩

昭和初期の若手有力貴族について

中尾 浩章

—岡部長景を中心に—

鈴鹿地域と自動車工業の関連について

長野 哲幸

映画常設館の始動

西 陽子

日本の近代土地制度について

早山 徹

—神田孝平地券案の起源を中心に—

シーメンスの日本における功績と影響

春木 孝司

学習指導要領の変遷の一考察

平野 亮

—「期待される人間像」を視点に入れて—

山岳地域に於ける郵便集配システム

藤木 正

—昭和初期の奈良県天川村洞川地区を例として—

旧海軍「柳本飛行場」についての考察

藤田 博嗣

戦前における女子教育

松本 和洋

—奈良女子高等師範学校、

第三臨時教員養成所の付設について—

日本酒造りに関する考察

安田 光宏

戦時下におけるマス・メディア統制に対する一考察

山崎 則明

四国霊場の廃仏毀釈

脇 美紗納

—愛媛県神前寺の廃仏毀釈と権現信仰の一考察—

関東大震災後の都市復興計画

荒川 隆

—市街地の拡大とそれに伴う諸問題—

【東洋史】

明代の北辺

猪木 敬二

—板升の成立過程から馬市の定期開設へ—

漢代の刑罰観念について

内山 純一

―文帝の刑法改革を中心にした刑罰体系の
推移に関する考察―

中国食文化と皿

―元朝文化における食と皿の変遷―

後漢の外戚

―竇氏・鄧氏専権を中心に
東晋次氏論文から考察する―

郷論と人物評価について

―後漢より晋にかけて―

清末におけるチベット情勢

―チベットの「独立」―

洪武帝による独裁体制の確立について

―特に中書省の変遷過程とその廃止までに注目して―

宋代初期の教育問題と社会

―慶暦年代の胡瑗の教学を中心に―

北魏孝文帝の華化政策について

―北族社会の変化について―

琉球を中心として見た明代の国際関係

―明初体制における朝貢貿易をめぐって―

モンゴル帝国について

―明初体制における朝貢貿易をめぐって―

唐代の市について

―都長安を中心に―

漢代の災異思想について

―劉向と劉歆の災異解釈―

北魏太武帝と漢人貴族との関係

―皇帝権の確立をめぐって―

中国中世における丹葉

―「抱朴子」を中心として―

唐宋変革期における華南地方

―儂智高の叛乱に見る社会変化―

遼朝における漢民族統治

―遼朝の経済政策を中心に―

南宋中期の政治情勢

―慶元の党禁に関する一考察―

宋代の土地制度

―大土地所有に対して試行された限田法について―

李繼遷・李徳明政権の対外関係について

☆ ☆ ☆

アヘン流入と広東社会

太平天国の乱における列強と清の関係についての考察

奥居 まき

栗田 和彦

結家 三好

田宮 瑞恵

長谷川 秀明

藤田 由美子

藤津 靖史

松澤 千尋

圓尾 啓一

光吉 加佳

宮原 敦宏

安田 渡

藪田 智子

山田 諭

山田 美穂

吉用 直江

和田 寛樹

江頭 成典

白杵 博司

— 太平天国の対外政策とイギリスの態度変遷 —

東北軍閥と日中関係についての考察

シヤムの独立

— 植民地化から緩衝国化へ —

二十世紀初頭の中国における辺境問題

— チベット独立を中心に —

民国成立後における政治的混乱

— 宗教仁の活動を中心に —

近代朝鮮にとつての自主と独立

— 朝鮮開化派の政治思想とその実践 —

回民起義にみる清朝の民族差別政策

— 雲南地方を中心に —

義和団の源流

【西洋史】

スパルタクスの蜂起についての一考察

ローマ帝国における皇帝政治とキリスト教について

ローマにおけるギリシア文化の受容

佐藤 賢一

塩野 覚

龍本 尚史

東條 弘周

林 勇樹

文 彰浩

山崎 友香

小池 俊彦

赤穂 浩之

飯間 俊行

磯村 和弘

古代地中海世界におけるシチリアの政治的、

経済的意義について

アレクサンドロス大王の東方遠征について

エジプト

— 暮らしの中の思想 —

古代エジプト第十八王朝における

イク・エン・アテンの「宗教改革」について

紀元前四世紀ボスポロス王国とアテナイ

— 穀物交易を中心として —

アウグストゥスについて

— 共和制ローマとアウグストゥス皇帝権力の形成 —

紀元前一世紀におけるローマの食糧事情

— シチリア島を中心として —

神が秩序そのものである世界

— ホメーロスの二大叙事詩における神についての考察 —

古代ローマの人の死生観

— 「死」に込めた想い —

ポエニ戦争におけるローマのカルタゴ破壊

ギリシアにおける神話と宗教

今中 雅之

岩本 幸博

大谷 元

尾崎 雅史

小野 真寛

小山 泰弘

川崎 雅之

高縁 直美

阪部 由記

坂本 芽梨

鈴木かおる

ローマにとつてのギリシア文化 田中じゅん

―ハドリアヌス皇帝にとつてのギリシア文化―

聖書のなかの戦争 新田 匠

古代ローマ帝国の支配とパトロネージ 服部 慎也

結婚にみる古代ギリシアの女性の地位について 春名 葉子

帝政期におけるローマの家族について 樋口 直子

アレクサンドロス大王が関わった諸都市について

―マケドニア王国とギリシア世界の優越性の変化―

ギリシアにおける共同食事について 藤原 円

―スパルタを中心に― 本田 豊

競技的人間 峯 英雄

―古代ギリシアのスポーツ競技考察―

☆ ☆ ☆

マグナ・カルタについて 泉尾 多美

フランス絶対王政の展開 今原 知美

十五世紀ポルトガルの歴史的展開 大林 直樹

中世フランス農村社会の変遷について 奥井 聖代

カペー王権による統治の展開 勝間 新悟

プロイセンの絶対主義について 川野 哲

ウィーン体制の変遷 志賀 友子

フランス革命の展開 谷澤 ゆき

西欧中世における騎士身分の成立と展開 林 伸礼

十六・十七世紀におけるイギリスの魔女裁判 日笠 敬介

西欧中世における死の概念について 三宅 愛子

オランダの独立について 山岡 勝政

西ヨーロッパ中世における民衆的宗教運動について

―「初期」民衆宗教運動について― 吉井 耕一

ロマネスク建築の展開について 吉光さち子

北アイルランド紛争の歴史 ☆ ☆ ☆

―IRAの活動を中心に― 内苑 史朗

ドイツ・ロマン主義の精神とその影響 浦本 天弓

中央アンデス地帯における神殿建築の開始について

アメリカ独立戦争 大谷 博則

チリ軍政権下の民主化運動 梶谷 泰志

―軍政権の政策の影響を中心に― 北村加奈子

第一次世界大戦からイタリア・ファシズムへの道

トゥバック・アマールの反乱とペルーの独立

橋川 鎮賢

スペインの新大陸征服

坂根 庸恭
柴田 敬介

―インディオの激減を通じて―

核兵器について

杉谷 隆

ペルー副王領におけるトレドの改革

高橋 秀行

―スペイン王室による植民地体制の確立―

チリのイースター島民の起源について

中西 由佳

一八四八年のウィーン革命とプロレタリア

福山 麻衣

アメリカ革命

藤土 直樹

西ドイツ戦後史の展開について

藤本 学

―西ドイツの戦後復興・経済復興を中心として―

パルチザン戦争

細井 正弘

米国の対韓政策

堀添伸一郎

湾岸戦争にみるアラブ世界の変化

増田 千保

―アラブ民族主義及びイスラム原理主義の行方―

マヤ文明における権力構造

神崎 貴幸

―政治的正当性としての権力基盤に関する考察―

平成一一年度大学院論文題目（史学関係）

【修士論文】

古代大蔵省の制度改革について

上原 治

古代施薬院の職掌について

佐々木有美

室町期・淀魚市における塩流通についての一考察

前久保宏江

【博士論文】

幕末情報社会の研究

坂東 俊彦

受贈雑誌及び圖書

〔自一九九九年十一月
至二〇〇〇年 十月〕

雑誌

- 愛大史学（愛知大学文学部史学科） 第九号
愛知大学総合郷土研究所紀要 第四五輯
愛知大学博物館学芸員課程実習報告書 第五号
愛知大学文学論叢 第一二二輯
青山史学（青山大学文学部史学研究室） 第一七、一八号
青森県史研究（青森県史編纂室） 第四号
アカデミア（南山大学） 人文社会科学篇六九―七一号
アジア・アフリカ言語文化研究（東京外国語大学アジア・
アフリカ言語文化研究所） 第五八、五九号
アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究所） 第二六号
アジア文化学科年報（追手門学院大学文学部アジア文化学
科） 第二号
岩手史学研究（岩手史学会） 第八三号
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗博物館 第一一号
大分県立歴史博物館研究紀要 第一号
岡崎市史研究（岡崎市教育委員会） 第二二号
お茶の水史学（お茶の水女子大学読史会） 第四四号
- 海南史学（高知海南史学会） 第三八号
学習院大学東洋文化研究所調査研究報告 第四四、四六一
四八号
漢学研究通訊（漢学研究センター） 第七一―七五期
環日本海地域比較史研究（新潟大学環日本海地域比較史研
究会） 第七号
紀尾井史学（上智大学大学院史学専攻院生会） 第一九号
岐阜史学（岐阜史学会） 第九六号
京都橘女子大学研究紀要 第二六号
キリスト教史学（キリスト教史学会） 第五四集
ぐんま史料研究（群馬県立文書館） 第一四号
神戸大学史学年報（神戸大学史学研究会） 第一五号
国士館史学（国士館大学史学会） 第八号
斎宮歴史博物館研究紀要 第九号
史苑（立教大学史学会） 第六〇巻第一、二号
史園（園田女子大学歴史民俗学会） 第一輯
史学（三田史学会） 第六九巻第二、三、四号、第七〇巻
第一号
史観（早稲田大学史学会） 第一四二、一四三冊
史泉（関西大学史学・地理学会） 第九一、九二号

- 史艸（日本女子大学史学研究会） 第四〇号
 史窓（京都女子大学史学会） 第五七号
 史叢（日本大学史学会） 第六〇—六二号
 四天王寺國際仏教大學紀要 平成一一年度
 社会科学研究所（中京大学社会科学研究所） 第二〇卷第一、二号
 史友（青山学院大学史学会） 第三二号
 就実女子大学史学論集 第一四号
 上智史学（上智大学史学会） 第四四号
 昭和女子大学文化史研究 第四号
 資料館紀要（京都府立総合資料館） 第二八号
 史料館研究紀要 第三一号
 史論（東京女子大学読史学会） 第五三集
 神女大史学（神戸女子大学史学会） 第一六号
 信大史学（信大史学会） 第二四号
 人文学報（東京都立大学人文学部） 第三〇六号
 人文論集（静岡大学人文学部） 第五一号一、二冊
 スペイン史研究（スペイン史学会） 第三二号
 住友史料館報 第三一号
 聖心女子大学論叢 第九四集
 西洋史学報（広島西洋史学会） 第二七号
 西洋史論集（北海道大学文学部西洋史研究室） 第三号
 西洋史論叢（早稲田大学西洋史研究会） 第二二号
 専修史学（専修大学歴史学会） 第三一号
 創価大学人文論集 第一二号
 地域研究いたみ（伊丹市立博物館） 第二九号
 近松研究所紀要（園田女子大学近松研究所） 第一〇号
 千葉史学（千葉歴史学会） 第三五、三六号
 中央史学（中央史学会） 第三二号
 中国史学研究彙報 一九九八年下半年号
 中国水利史研究（中国水利史研究会） 第二七号
 津田塾大学国際関係研究所報 第三四号
 敦賀論叢（敦賀短期大学紀要） 第一四号
 帝京国際文化（帝京大学文学部国際文化学科） 第一三三号
 帝京史学（帝京大学文学部史学科） 第一五号
 帝塚山大学大学院人文科学研究所紀要 第一号
 東海史学（東海大学史学会） 第三四号
 東京大学日本史学研究室紀要 第四号
 東洋史苑（龍谷大学東洋史学研究会） 第五四号
 東洋史学論集（立教大学大学院文学研究科史学専攻東洋史）

第三号

- 東洋史訪（兵庫教育大学東洋史研究会） 第六号
- 東洋大学文学部紀要 第五三集 史学会篇第二五号
- 東洋文化研究（学習院大学東洋文化研究所） 第一、二号
- 徳川林政史研究所研究紀要 第三三、三四号
- 栃木史学（國學院大學栃木短期大学史学会） 第一四号
- 富山県「立山博物館」研究紀要 第七号
- 七隈史学（福岡大学人文学部歴史学科） 創刊号
- 奈良学研究（帝塚山短期大学奈良学会） 第三号
- 奈良県立民俗博物館研究紀要 第一七号
- 寧楽史苑（奈良女子大学史学会） 第四五号
- 新潟県立文書館研究紀要 第七号
- 新潟県立歴史博物館研究紀要 創刊号
- 新潟史学（新潟史学会） 第四三、四四号
- 二松（二松学舎大学大学院文学研究科） 第一四集
- 二松学舎大学東洋学研究所集刊 第三〇集
- 二松学舎大学論集 第四三号
- 日本学研究（金沢工業大学日本学研究所） 第三号
- 日本研究（国際日本文化研究センター） 第二〇集
- 日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史学研究室）

第三一号

- 日本常民文化研究（成城大学大学院文学研究科） 第二一
輯
- 日本文化史研究（帝塚山短期大学日本文化史学会） 第
三一、三二号
- 日本モンゴル学会紀要 第二九、三〇号
- 年報中世史研究（中世史研究会） 第二五号
- 年報日本史叢（筑波大学歴史人類学系） 一九九九
- 白山史学（東洋大学白山史学会） 第三六号
- 東アジア研究（大阪経済法科大学アジア研究所） 第二八
号
- 兵庫教育大学研究紀要 第二〇巻
- 兵庫のしおり（兵庫県政資料館） 第二号
- 弘前大学国史研究（弘前大学国史研究会） 第二〇七、一
〇八号
- 福岡教育大学紀要 第四九号第二分冊社会科編
- 富士論叢（富士短期大学学術研究会） 第四四巻第二号、
第四五巻第一号
- 仏教大学総合研究所報 第一八号
- 仏教大学総合研究所紀要 第六、七号

文学部論集（仏教大学文学部） 第八四号

法政史学（法政大学史学会） 第五三号

法政史論（法政大学大学院日本史学会） 第二七号

北大史学（北大史学会） 第三九号

御影史学論集（御影史学研究会） 第二五号

三井文庫論叢 第三三三号

南アジア・構造・変動・ネットワーク 第二卷第一一四号

第三卷第一号

民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所） 第三

二卷六一一、二二号、第三三三卷第一一五号

明代史研究（明代史研究会） 第二八号

明大アジア史論集（明治大学東洋史談話会） 第五号

鷹陵史学（鷹陵史学会） 第二五、二六号

横浜商大論集 第三三三卷第二号

米沢史学（米沢史学会） 第一五号

洛北史学（洛北史学会） 第一、二号

立正史学（立正大学史学会） 第八六、八七号

龍谷史壇（龍谷大学史学会） 第一一三、一一四号

歴史（東北史学会） 第九四輯

歴史研究（愛知教育大学歴史学会） 第四四・四五号

歴史研究（大阪教育大学歴史学研究室） 第三七号

歴史人類（筑波大学歴史・人類学系） 第二八号

歴史と地理 第五二九一七号

和菓子（虎屋文庫） 第七号

図書

伊丹鴻池の歴史（大手前女子大学史学研究所）

インド農業労働賃金分析（宇佐美好文・角井正幸著）

江戸時代海面入会争論再審実録（見城幸雄編） 愛知大学綜

合郷土研究所資料叢書八）

江戸時代の農民支配と農民（見城幸雄著） 愛知大学綜合郷

土研究所資料叢書九）

黄表紙江戸おもしろお菓子展（虎屋文庫）

旧鑄物師村大路利一氏文書一（伊丹市立博物館史料集四）

近代日朝における《朝鮮観》と《日本観》（仏教大学総合

研究所紀要別冊）

現代社会における人間観の探求（仏教大学総合研究所紀要

別冊）

参勤交代年表下（柳沢史料集成第八卷） 柳沢文庫）

四季折々茶席の和菓子展（虎屋文庫）

浄土教の総合的研究 (仏教大学総合研究所紀要別冊)

東亜同文書院中国大調査旅行の研究 (藤田佳久著、愛知大

学文学会叢書五)

豊川流域の生活と環境 (愛知大学総合郷土研究所)

豊後国安岐郷一 (大分県立歴史博物館 国東半島荘園村落

遺跡詳細分布調査概報)

糾われる開発—インド・グジャラートの女性組織運動とエー

ジェンシー (喜多村百合著)

マハラノビスの遺産 (絵所秀紀著)

三井文庫所蔵史料 主要帳簿目録 (河内新田会所等作成)

南アジア系移民 (大石高志編)

南アジア経済の構造と変動 (絵所秀紀編)

歴史の道標 若林喜三郎先生追悼集

Economic Development and the Quality of Life in South

Asia